

(案)

子ども読書空間整備基本構想

平成31年 月

犬山市教育委員会

— 目 次 —

第1章 基本構想策定の策定にあたって	
1 背景	1
2 現状	1
(1) 統計からみる図書館の利用状況	2
(2) アンケート調査結果より	4
3 課題解決のための取り組み	4
第2章 子ども読書空間整備事業 基本構想	
1 空間整備の基本理念	5
2 空間整備の基本方針	5
3 空間整備の目標	5
4 空間整備の対象と蔵書構成	5
5 子ども読書空間の整備に向けて	6
(1) 館内のゾーニング	6
(2) ゾーニングの目的	7
6 空間（部屋）の多面的利用の必要性	7
(1) 多面的利用の方向性	7
(2) 多面的利用の例	7
第3章 子ども読書空間整備の方向性	
1 子ども読書空間整備の方向性	8
(1) 空間整備の方向性	8
参考 子ども読書空間の整備に向けて	9

第1章 基本構想策定にあたって

1. 背景

平成2年10月に開館した市立図書館は、平成32年に開館30周年の節目を迎えます。この間、図書館を取り巻く社会環境が大幅に変化し、テレビ、ラジオに加え、パソコン、インターネット、携帯電話、スマートフォン、タブレット、ゲームなど、様々な情報メディアの発達・普及、コミュニケーション手段の多様化により、子どもたちの生活環境も大きく変化するとともに、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、「読書離れ」「活字離れ」が進行し、その影響が懸念されています。

また、近年の図書館を取り巻く状況や時代のニーズは、図書資料を収集し、生涯学習や調査研究、趣味や娯楽などの様々な目的に活用する「文化教養型施設」といった役割だけでなく、個人や地域における課題解決に資する「課題解決型施設」としての役割や、多くの住民が気軽に集い交流する「交流空間型施設」としての役割が求められるようになってきました。

このような状況の中、国では5年ぶりに「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成30年4月23日）を改訂し、読書が子どもに与える影響の重要性と、時代に即した子どもに対する読書活動推進施策についての5年間の計画を公表したところであり、これに併せ、「犬山市子ども読書活動推進計画」を改定し、さらなる子どもの読書活動の推進を図る必要があります。

2. 現状

市立図書館の利用状況は、平成28年度以降、貸出冊数と貸出者数の減少が始まり、全国的に見られる図書資料の貸出数の減少と同じ傾向になってきました。世代ごとの利用傾向を分析すると、12歳以下（小学生以下）の子どもと、30代～40代（親世代）の貸出利用者数は全体の約43%を占めており、図書館貸出利用の主要なユーザーであることが分かりました。

施設面では、1階と2階の開架閲覧スペースを中心に、2階には展示室、学習室、視聴覚室を配置し、図書館イベントの開催、学習の場の提供、視聴覚資料上映会場として日々利用しており、閉架書庫を含めた全体の書架所蔵率は100%に近い状態です。

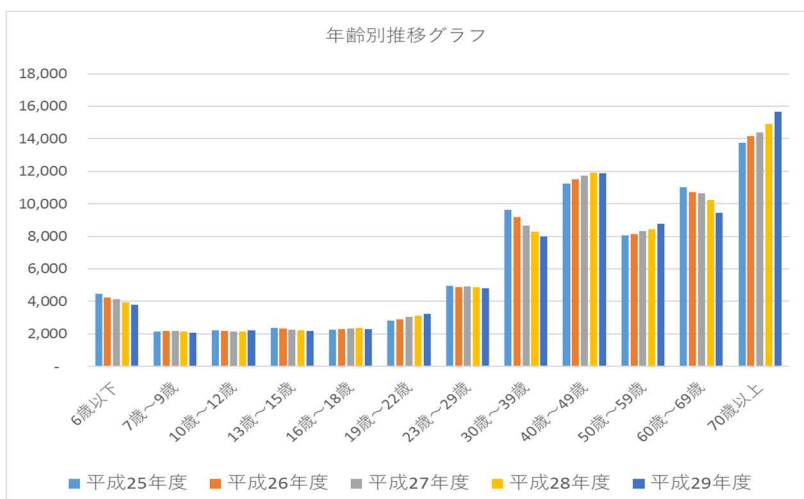
このことにより、館内の開架・閲覧スペースの拡張を望む声がありましたが、現在の開架閲覧スペース内に書架や閲覧席を増設するほどのスペースを確保することは困難な状態でありました。

館内の限られたスペースを有効活用し、図書館の機能を最大限に発揮するためには、施設全体を一つの空間と捉え、それぞれの場所や部屋を多面的に利用することで、施設面の課題を解決し、市民の読書推進につなげる必要があります。

(1) 統計から見る図書館の利用状況

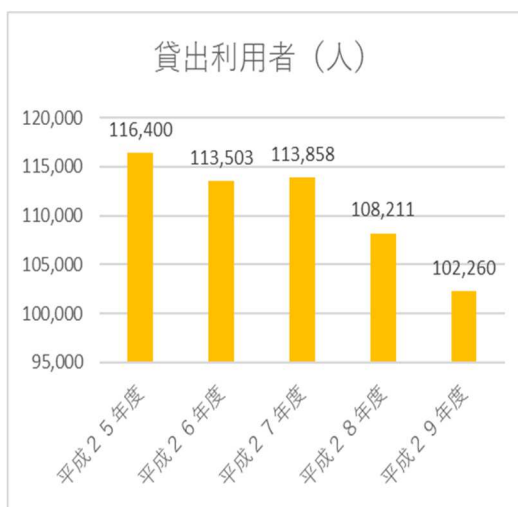
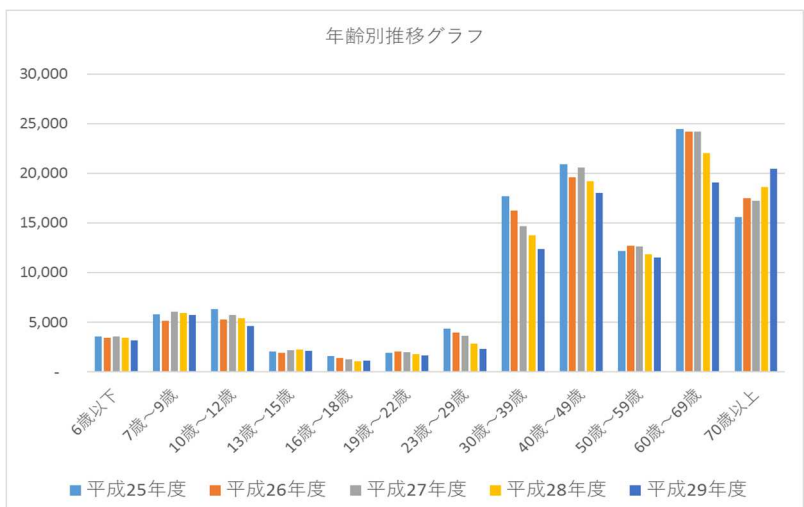
◆人口

	6歳以下	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳	19歳～22歳	23歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	計
平成25年度	4,477	2,147	2,219	2,362	2,236	2,796	4,967	9,649	11,232	8,056	11,006	13,734	74,881
平成26年度	4,251	2,195	2,181	2,310	2,282	2,880	4,886	9,190	11,498	8,150	10,735	14,168	74,726
平成27年度	4,133	2,160	2,159	2,243	2,340	3,038	4,897	8,659	11,720	8,321	10,641	14,398	74,709
平成28年度	3,930	2,133	2,146	2,212	2,368	3,123	4,867	8,269	11,915	8,429	10,215	14,902	74,509
平成29年度	3,797	2,071	2,212	2,179	2,283	3,226	4,813	7,979	11,884	8,780	9,455	15,647	74,326



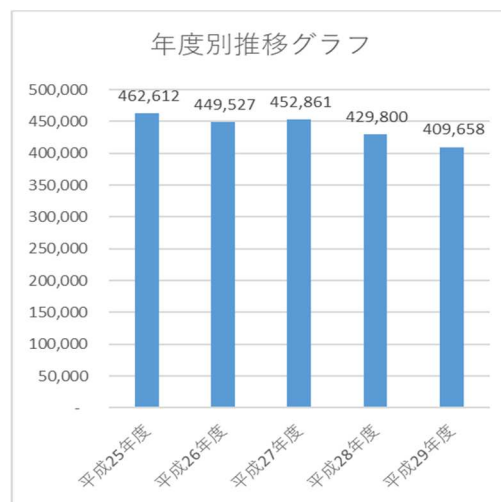
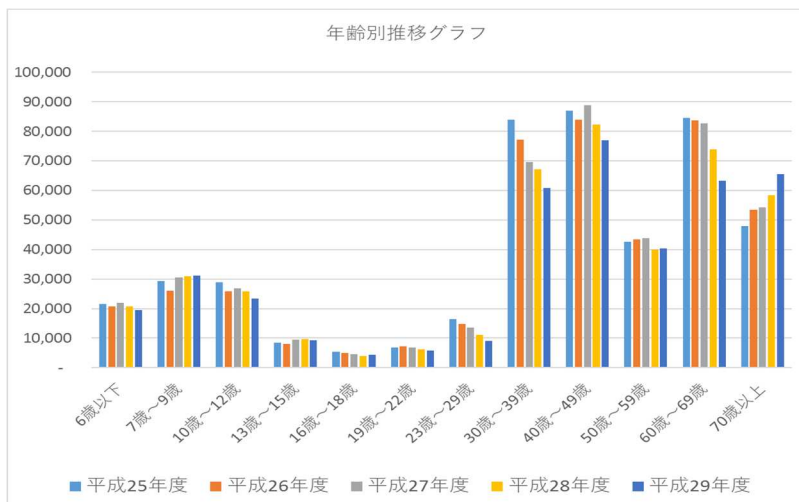
◆貸出利用者

	6歳以下	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳	19歳～22歳	23歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	計
平成25年度	3,598	5,814	6,297	2,068	1,587	1,899	4,339	17,698	20,919	12,178	24,432	15,571	116,400
平成26年度	3,468	5,156	5,265	1,919	1,400	2,084	3,972	16,277	19,585	12,689	24,182	17,506	113,503
平成27年度	3,575	6,050	5,760	2,185	1,293	2,003	3,624	14,653	20,586	12,647	24,216	17,266	113,858
平成28年度	3,467	5,948	5,386	2,233	1,087	1,769	2,865	13,751	19,220	11,837	22,043	18,605	108,211
平成29年度	3,183	5,754	4,624	2,107	1,120	1,640	2,305	12,381	18,033	11,551	19,094	20,468	102,260



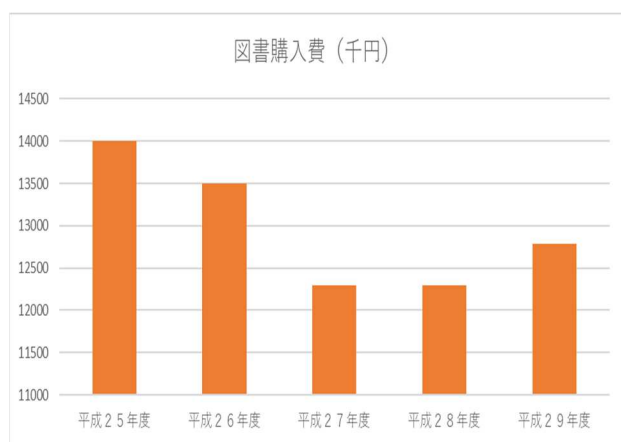
◆貸出冊数

	6歳以下	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳	19歳～22歳	23歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	計
平成25年度	21,550	29,235	28,938	8,442	5,301	6,795	16,409	83,861	86,975	42,712	84,472	47,922	462,612
平成26年度	20,770	26,032	25,929	8,015	4,964	7,300	14,723	77,083	83,916	43,496	83,754	53,545	449,527
平成27年度	21,952	30,615	26,796	9,447	4,575	6,810	13,472	69,656	88,910	43,773	82,624	54,231	452,861
平成28年度	20,803	30,925	25,779	9,619	3,895	6,166	11,045	67,204	82,217	39,902	73,972	58,273	429,800
平成29年度	19,553	31,153	23,431	9,282	4,458	5,793	9,093	60,881	77,002	40,296	63,258	65,458	409,658



◆図書購入費

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市内人口(人)	74,881	74,726	74,709	74,509	74,326
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
図書購入費(千円)	14,000	13,500	12,300	12,300	12,788
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人口1人当たりの図書購入費(円)	187	181	165	165	172



※人口、図書購入費、利用者数は共に減少傾向

※平成29年度の貸出利用者数の割合

12歳以下 約13% (小学生以下の子ども)

30歳～49歳 約30% (保護者世代)

上記世代の合計 約43%

※平成29年度末の人口の世代割合

12歳以下 約11% (小学生以下の子ども)

30歳～49歳 約27% (保護者世代)

上記世代の合計 約38%

(2) アンケート調査結果より (資料編1「子どもの読書活動に関するアンケート調査」より)

- ・ 子ども及び保護者への質問で「本を読みますか」という質問に対し、「よく読む」「ときどき読む」と答えた割合は、小学生79.0%、中学生58.8%、園児保護者78.5%でした。
- ・ 子どもへの質問で「家の人に本を読んでもらったことがありますか」との質問に対し、「よくあった」「ときどきあった」と答えた割合は、小学生50.7%、中学生48.1%でした。反対に「あまりなかった」「なかった」と答えた割合は、小学生28.7%、中学生28.9%でした。
- ・ 園児保護者への質問で「お子様に読み聞かせをすることや、一緒に読書をすることがありますか」との質問に対し、「ほぼ毎日」「週に3~4回」との答えが28.6%で、「週に1~2回」が43.3%、「ない」が26.7%でした。
- ・ 園児保護者への質問で「読書、読み聞かせは子どもの健やかな成長に重要であると思いますか」との質問に対し、95.2%の保護者が「とても重要」「ある程度重要」と答えています。
- ・ 子どもへの質問で「読む本をどのように選んでいますか」との質問に対し、「自分でさがして」と答えた割合が一番多く、小学生は57.6%、中学生は59.6%でした。
- ・ 子どもへの質問で「読みたい本をどのようにして手に入れていきますか」との質問に対し、「本屋さんで買う」と答えた小学生が34.8%、中学生が48.9%と一番多く、小学生は次に「学校の図書館でかりる」が27.7%でした。
- ・ 子ども及び園児保護者への質問で「市立図書館を何回利用(4~6月の3か月間)しましたか」との質問に対し、「0回」は、園児保護者55.2%、小学生53.4%、中学生61.6%と高い数値を示しています。
- ・ 園児保護者への質問で「子どもの読書活動推進のために市立図書館に希望することはありますか」との質問に対し、「子ども向けイベントの開催」が27.9%と一番割合が多く、「蔵書の充実」19.2%、「読書ができる場所」17.5%、「読み聞かせ会の開催」15.3%の順でした。

3. 課題解決のための取り組み

アンケートでは、多くの子どもは本が好きで、多くの保護者は読み聞かせや読書の重要性を認識しています。しかし、保護者が実際に家庭で読み聞かせをすることは「ない」と答えた割合が26.7%であり、この数値は少ないとは言えません。また、半数以上の子どもは自分で本を探し、3割以上が本屋さんで入手しています。5割以上の子ども及び保護者は過去3か月間に市立図書館を利用したことが「ない」と答えています。市立図書館に対しては、子どもたちの図書館利用の促進につながる事業展開を望む声が多く、具体的にその理由や方法について、今以上にわかりやすく伝え、読書の大切さを理解できる機会・情報・場所の提供が求められています。

近年の技術の発達で様々な情報機器が身近に溢れ、生活環境が大きく変化する状況で、改めて読書の重要性が指摘されていますが、市立図書館の貸出利用は減少傾向になっているのが現状です。

そこで、図書館の利用促進と子どもの読書活動推進の観点から、将来を見据えた効果的で有効な施策を展開するために、対象を図書館利用の中心的世代の12歳以下の子どもとその保護者である30代~40代の親世代に設定し、子どもの読書活動推進を重点施策として位置づけ、図書館の展示室を「子ども読書空間」としてリニューアルを図ることで、子どもの読書率の向上、生きる力につながる1冊の本との出会い、貸出冊数及び貸出利用者数の向上につなげていきます。

1. 空間整備の基本理念

幼い子どもは、絵本を読み聞かせることで、知性や感情が豊かになり、やがて、自分で文字を読む力がつくと、本の世界に入り込みます。

読書は今まで体験したことのない世界に触れ、登場人物の思いや体験に胸躍らせ、一緒に考える中で、様々な人間関係を擬似的に体験し、他者との関わりの中で生きている自分を発見し、客観的に自分を見つめる能力が育つと考えられています。

また、読書を通して、知らない単語や表現に出会い、自然に語彙力と表現力が鍛えられ、読解力、国語力が向上し、情報活用能力を育成するものでもあります。

大人は子どもが「読書を楽しむ」きっかけをつくるとともに、家庭、地域、学校等、社会全体で「子どもが自ら進んで本を読みたくなる」環境を整える必要があります。

市立図書館は、子どもの読書活動の推進拠点として、子どもへの働きかけに加えて、子どもを支える大人たちにも、子どもと一緒に読書をする環境を整備することで、より身近に読書の楽しさと大切さを伝えていきます。

2. 空間整備の基本方針

- ①読書を通じて交流や安らぎが生まれる読書空間を創出します。
- ②読書について大人が学び、読書の楽しさを子どもと保護者に提案する場を創出します。
- ③歴史と自然に恵まれた犬山の魅力を子どもに伝える場を創出します。

3. 空間整備の目標

- ①本との出会い 子どもに届けたい本を見やすく展示し分かりやすく紹介します。
- ②大人の学び 子どもに届けたい本の知識と読み聞かせの方法を学びます。
- ③読書の提案 子どもが楽しく読書をする居場所を提供します。
- ④本の可能性 子どもに届けたい様々な資料について研究します。
- ⑤地域を学ぶ 子どもが歴史と自然に恵まれた犬山の魅力を学ぶ資料を提供します。

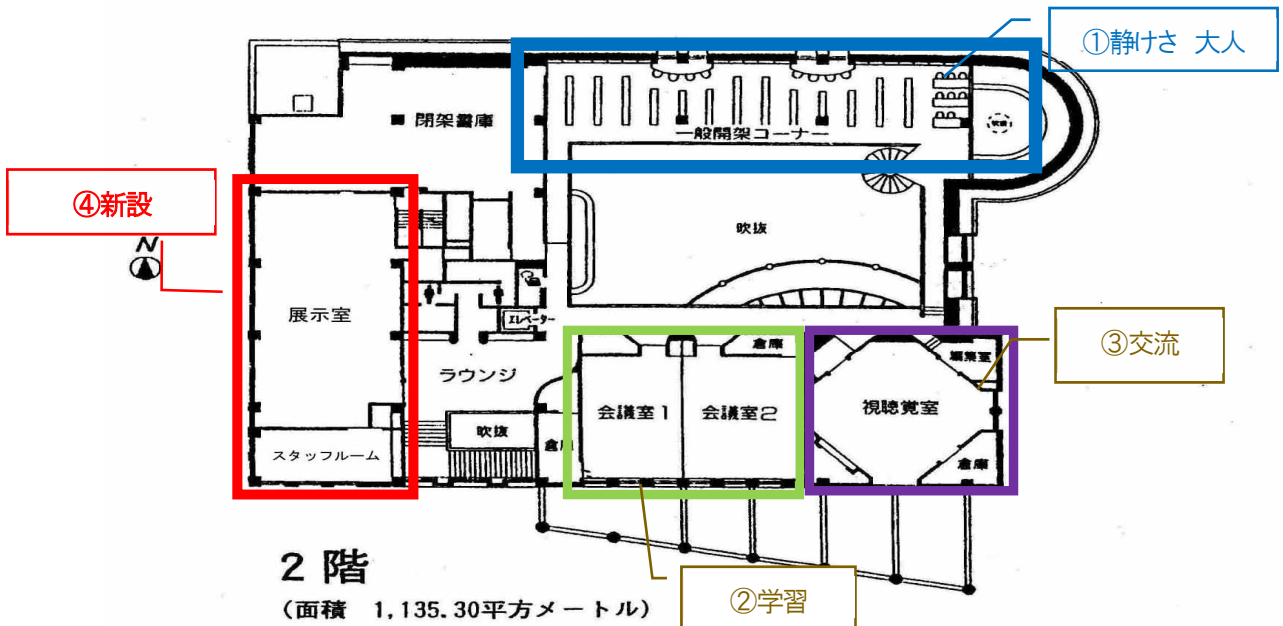
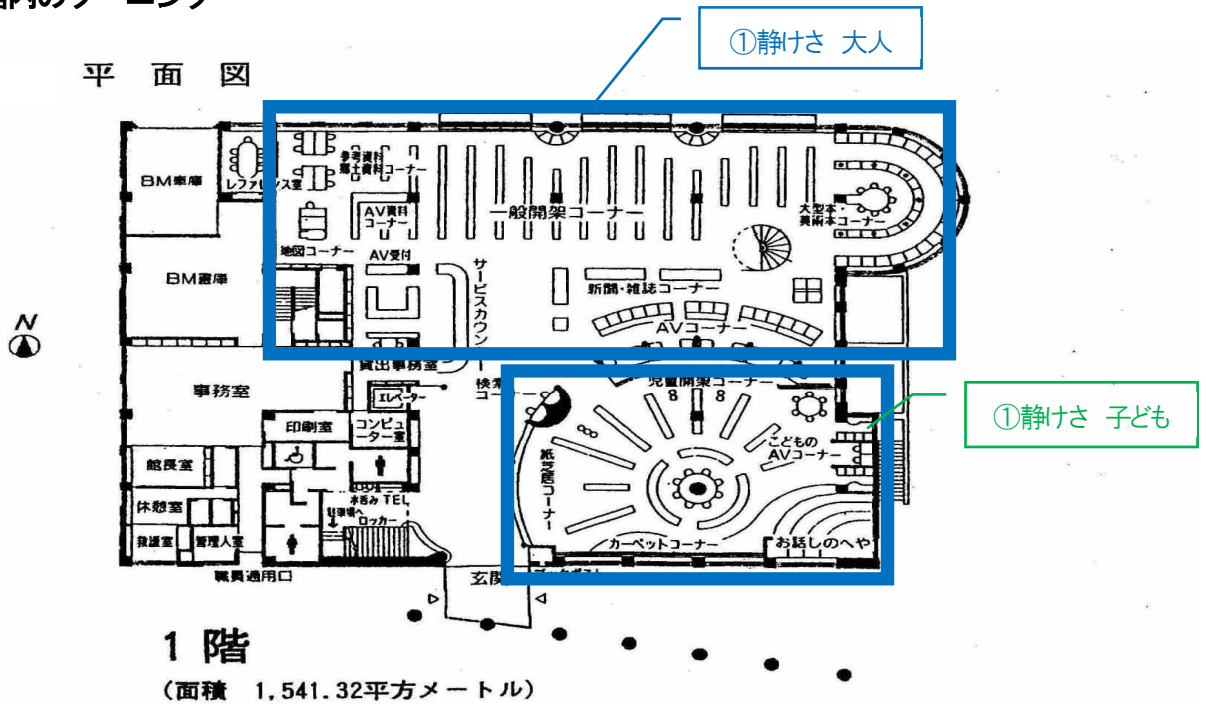
4. 空間整備の対象と蔵書構成

乳幼児から小学生までを対象とした図書を中心に展示し、大人も一緒に読書ができる空間とします。

5. 子ども読書空間整備に向けて

(1) 館内のゾーニング

平面図



場所	現在の館内名称	主な利用目的
静けさの空間 (大人)	1・2階一般開架	静寂の中で読書を楽しむ場所
静けさの空間 (子供)	1階児童室	子どもが様々な本に出会う場所、読み聞かせの場所
学習の空間	2階会議室1・2	静かな学習のための場所
交流の空間	2階視聴覚室	DVD上映会、セミナー等、人が集まる場所
子どもの読書空間	2階展示室・スタッフルーム	子どもが楽しく読書し、大人が子どもに読み聞かせをする場所

(2) ゾーニングの目的

図書館は、乳幼児から高齢者まで様々な年代が様々な目的で利用する施設であり、図書館に対して抱くイメージは人それぞれです。

本を借りる場所、調べ学習をする場所、子どもへの読み聞かせをする場所、静かな空間で読書をする場所、調査・研究のための資料を閲覧する場所、学校の勉強をする場所、休憩する場所、遊ぶ場所、ボランティア活動で地域貢献する場所等が挙げられます。

今後も市民の教育・文化の発展のための読書センター・情報センターとしての役割を果たすため、読書、調査研究、学習のための静かな空間を確保しつつ、子どもと大人が一緒に楽しく読書ができる空間を創出するためには、館内をゾーニングし、空間の使い方を分かりやすくすることが必要であり、利用者が目的に応じて場所を使い分けることが、より快適で使いやすい図書館に生まれ変わることに繋がります。

6. 空間（部屋）の多面的利用の必要性

近年、新たに建設される図書館は、図書館の多様化した役割の実現と、図書館の集客力を利用した市街地の活性化、ファシリティマネジメントの観点等により、施設の複合化が進み、一つの建屋の中に、図書館、生涯学習センター、子育て支援センター、ホール、貸会議室、飲食店等がパッケージ化された施設として建設される事例が多くみられます。

本市の図書館は、市民の教育と文化の発展に寄与するために、図書館利用を主たる目的とし、一部は教育委員会事務局及び会議室として平成2年に建設された施設です。平成21年度に現在の市庁舎に教育委員会事務局が移転した後は、展示室として、そのスペースを図書館行事や市民の生涯学習の発表の場として活用し、会議室は個人学習のための学習室として開放しています。

前述の課題のとおり、市立図書館全体のスペースには限りがあり、この限られたスペースの中で、今後、図書館に求められる様々な役割に答えるためには、それぞれの空間（部屋）を多面的に利用することが必要です。

(1) 多面的利用の方向性

- ・ 時間帯、曜日により役割を変え、空間の有効利用を図ります。
- ・ 1つの部屋に2つ以上の機能を持たせ、空間の有効利用を図ります。
- ・ 現在の開架・閲覧エリアの静けさを保ちます。

(2) 多面的利用の例

空間（部屋）	主な利用方法	多面的利用 1	多面的利用 2
会議室 1・2	個人学習室	講演会	図書館イベント
視聴覚室	上映会	セミナー、ワークショップ	ミニ展示
子ども読書空間 (展示室)	子どもの本の開架・閲覧	セミナー、ワークショップ	本修理、展示物作成等
子ども読書空間 (スタッフルーム)	図書館ボランティア拠点	集団学習室	リラックスルーム

1. 子ども読書空間整備の方向性

市立図書館は、子どもの読書活動の推進拠点として、子どもへの働きかけに加えて、子どもを支える大人たちにも子どもと一緒に読書をする環境を整備し、分かりやすく読書に関する様々な情報を発信することで、より身近に読書を感じ、読書の楽しさを伝えるために、5つの目標を掲げ、市立図書館の展示室を「子ども読書空間」としてリニューアルします。

(1) 空間整備の方向性

〔目標1〕 **本との出会い** 子どもに届けたい本を見やすく展示し分かりやすく紹介します。

読む力を育て生きる力を養ってくれる本、長年読み継がれている本、成長段階ごとに読んでほしい本など、市立図書館から子どもたちに届けたい本を、見やすく展示し、分かりやすく紹介することで、子どもの心に残る自分だけの一冊に出会うための空間として整備します。

〔目標2〕 **大人の学び** 子どもに届けたい本の知識と読み聞かせの方法を学びます。

読書や読み聞かせは、子どもの成長にどのように良い影響を与えるのか、また読み聞かせの方法や、読む本の選び方についても分かりやすく理解できる機会や情報を提供することで、保護者や図書館ボランティアが集う空間として整備します。

〔目標3〕 **読書の提案** 子どもが楽しく読書をする居場所を提供します。

親子と一緒に本の感想を話したり、本を選んだり、寄り添って読書をしたり、時には寝転んで読書をしてみたり、心地良い場所で子どもと大人が読書し、微笑みが溢れる空間として整備します。

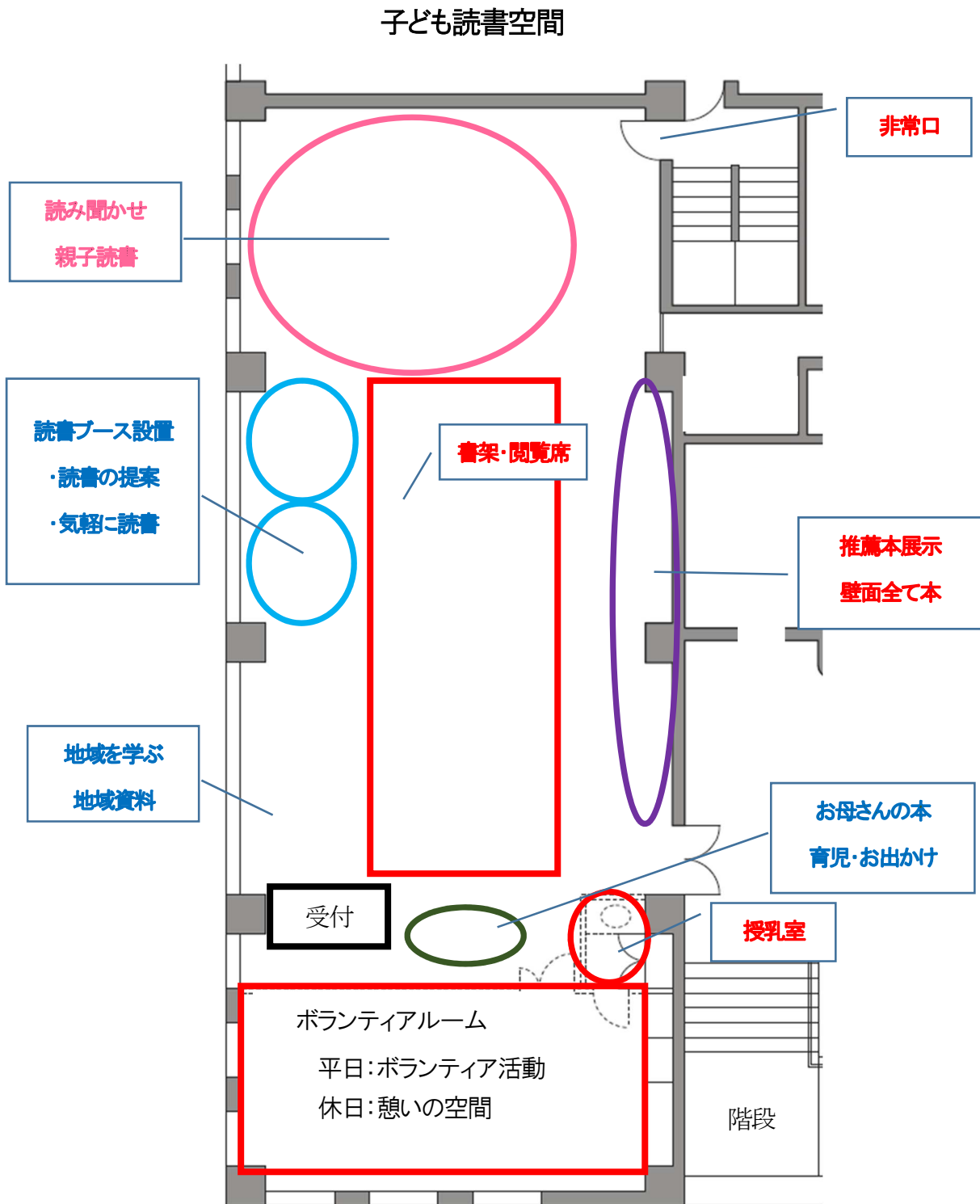
〔目標4〕 **本の可能性** 子どもに届けたい様々な資料について研究します。

読書や学びのきっかけとなる学習漫画や長年読み継がれた漫画は数多くあります。また、文字を読むことが困難な子どものためのデージー図書についても徐々に普及しています。子どもたちへの様々な資料の提供方法と普及方法を研究する空間として整備します。

〔目標5〕 **地域を学ぶ** 子どもが歴史と自然に恵まれた犬山の魅力を学ぶ資料を提供します。

犬山市は、日本ラインの名称を持つ木曾川が流れ、東部丘陵地の大半が飛騨木曾川国定公園に指定された豊かな自然が残っています。また、犬山城と茶室如庵、明治村、京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンターを有し、歴史、文化、教育面でも多彩な資源を有しています。これら郷土の自然や歴史を学び、犬山の魅力を子どもたちに受け継ぐきっかけとなる空間として整備します。

■ 子ども読書空間の参考イメージ図



※上図は参考イメージです。

■ 市立図書館基本情報

エリア	面積	備考
敷地面積	3, 601. 77 m ²	
建築面積	1, 545. 72 m ²	
延床面積	4, 961. 63 m ²	
各階面積 (3階)	146. 68 m ²	
各階面積 (2階)	1, 135. 30 m ²	
各階面積 (1階)	1, 541. 32 m ²	
各階面積 (地下1階)	2, 138. 33 m ²	
1階 開架	945. 59 m ²	※うち児童室292. 68 m ²
2階 開架	148. 69 m ²	
2階 展示室・スタッフルーム (子ども読書空間)	198. 47 m ²	展示室 162. 11 m ² スタッフルーム 36. 36 m ²
構造	鉄筋コンクリート造	※一部は鉄骨造及び鉄筋鉄骨

■ ワークショップの意見から抜粋 (こんな図書館あったらいいな)

区分	意見	
読書の場所	楽しい読書スタイルの提案	ふかふかクッション
	自分だけの居場所	ロフトやハンモック
	立派なソファ	穴ぐら (トンネル)
	寝転びながら	色々なイス お気に入りイス
	押入れの中	秘密基地
	カプセル図書館	床がクッションでいっぱい
	ベッドでゴロゴロ	外の景色を眺めながら
空間づくり	図書館に行けば一日過ごせる	飲食しながらゆっくり読書
	音楽と読書の空間	小さな子連れにも寛容
	子どもと来たくなる安らぎ	お母さん目線の優しい空間
	授乳室や子供のトイレがある	きれいなトイレ
	森、雲、鳥、空 自然の空間	カフェみたいな飲食ができる場所
	音楽が流れる空間	壁に落書きができる場所
人とのつながり	図書館クラブ活動スペース	子育ての悩みを聞いてほしい
	ママ友がほしい	話し合いのできる学習の場
	ボランティアが集う場所	
知りたい学びたい	読書を学びたい	何を読めばいいの
	良い本って何	読みきかせで使いたい本選び
	有名な作家さんに会いたい	専門の人に聞いてみたい
	本の相談ができる司書が常駐	何を読めばいいの
学校とのつながり	良い本は副本を整備	体験型イベントの充実
	学校貸出本の充実	作家や学識者との交流・勉強会